

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公表番号】特表2002-509587(P2002-509587A)

【公表日】平成14年3月26日(2002.3.26)

【出願番号】特願平10-529734

【国際特許分類第7版】

D 2 1 H 23/14

C 0 8 F 2/32

D 2 1 H 17/42

D 2 1 H 17/44

D 2 1 H 21/10

【F I】

D 2 1 H 23/14

C 0 8 F 2/32

D 2 1 H 17/42

D 2 1 H 17/44

D 2 1 H 21/10

【誤訳訂正書】

【提出日】平成16年10月22日(2004.10.22)

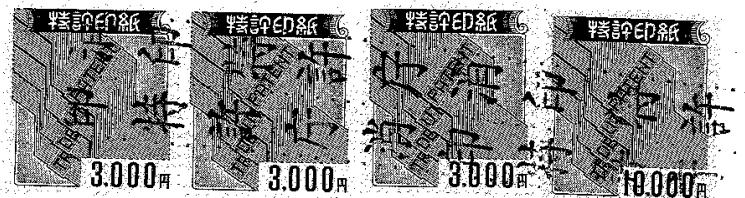
【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】補正の内容のとおり

【訂正方法】変更

【訂正の内容】



誤訳訂正書

(19,000円)



平成16年10月22日

特許長官 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第529734号

2. 特許出願人

名称 チバ スペシャルティ ケミカルズ ウォーター
トリートメント リミテッド

3. 代理人

住所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-12 SVAX TSビル
氏名 弁理士 (7866) 津国肇
電話 (3502) 7212



4. 訂正の内容

I. 請求の範囲の欄

別紙の通り誤訳訂正する。

II. 明細書の欄

- (1) 明細書第5頁第12行の「陰イオン性の第二水溶性重合体性保持助剤を加える」を、「陰イオン性の第二水溶性重合体性保持助剤の溶液を加える」と誤訳訂正する。

5. 訂正の理由等

- (1) 請求項1の第4～5行の「陰イオン性の第二水溶性重合体性保持助剤を加える」を、国際出願時における外国語特許出願の請求の範囲1（原文第25頁第6～7行）の「adding a solution of a water soluble, anionic, second polymeric retention aid」に基づき、「陰イオン性の第二水溶性重合体性保持助剤の溶液を加える」と訂正する。
- (2) 明細書第5頁第12行の「陰イオン性の第二水溶性重合体性保持助剤を加える」を、国際出願時における外国語特許出願の明細書（原文第6頁第4～5行）の「adding a solution of an anionic, second water soluble polymeric retention aid」に基づき、「陰イオン性の第二水溶性重合体性保持助剤の溶液を加える」と訂正する。

(別紙)

請求の範囲

1. 水溶性の、陽イオン性の第一重合体性保持助剤でセルロース懸濁液を凝集させて、セルロースフロックを形成する段階と、該フロックを機械的に粉碎する段階と、水溶性の陰イオン性エチレン性不飽和单量体の投入分を重合条件下で重合させることによって製造した、陰イオン性の第二水溶性重合体性保持助剤の溶液を加えることによって、懸濁液を再凝集させる段階と、再凝集した懸濁液を排水することによって、シートを形成する段階と、該シートを乾燥する段階とを含む製紙方法であって、該水溶性の陰イオン性重合体性保持助剤が、

(a) 单量体投入分に側鎖形成剤を含ませることによって製造した分枝鎖水溶性重合体であり、

(b) 3 dl/g を超える固有粘度を有し、

(c) 0. 005 Hz で 1. 5 % 溶液について、少なくとも 0. 5 の $\tan \delta$ レオロジー的振動値を有するか、又は同じ重合条件下で、側鎖形成剤の不在下で同じ单量体投入分から製造した重合体の加塩 S L V 粘度数の少なくとも 3 倍である脱イオン S L V 粘度数を有する

ことを特徴とする方法。

2. 分枝鎖重合体が、0. 7 を上回る $\tan \delta$ を有する請求項 1 記載の方法。

3. 分枝鎖重合体が、6 dl/g を上回る固有粘度を有する請求項 1 ~ 2 のいずれかに記載の方法。

4. 分枝鎖重合体が、2. 2 mPa · 秒以上の食塩水ブルックフィールド粘度を有する請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の方法。

5. 側鎖形成剤が、ポリエチレン性不飽和单量体であり、該側鎖形成剤の量が、約 1 ~ 10 モル ppm である請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の方法。

6. 側鎖形成剤が、ポリエチレン性不飽和单量体であり、該側鎖形成剤の量が、約 1 ~ 3. 5 モル ppm である請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の方法。

7. 分枝鎖重合体が、逆相乳化重合によって製造されており、セルロース懸濁液に加える前に該重合体を水に溶解して、希薄組成物を形成する請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の方法。

8. 分枝鎖重合体が、連鎖移動剤の存在下で製造されている請求項1～7のいずれかに記載の方法。

9. 分枝鎖重合体を加えるセルロース懸濁液が、溶解したアルミニウム化合物、もしくは3未満の固有粘度の陽イオン性重合体性凝集剤、又はその双方を含有する請求項1～8のいずれかに記載の方法。

10. 陽イオン性重合体性保持助剤が、4dl/gを上回る固有粘度を有する陽イオン性合成水溶性重合体及び陽イオン性澱粉から選ばれる請求項1～9のいずれかに記載の方法。

11. セルロース懸濁液を与える段階と、3dl/g未満の固有粘度を有する陽イオン性凝集性重合体及びアルミニウム化合物から選ばれる凝集剤を該懸濁液に混入する段階と、次いで、6dl/gを上回る固有粘度を有する水溶性の、合成による、陽イオン性の第一重合体性保持助剤を該懸濁液に混入することによって、該懸濁液を凝集させてフロックを形成する段階と、次いで、該フロックを機械的に粉碎する段階と、次いで、4dl/gを上回る固有粘度、及び0.5を上回る0.005Hzでの $\tan\delta$ レオロジー的振動値を有し、1～10ppmの側鎖形成剤を含有する陰イオン性単量体の投入分の逆相乳化重合によって製造した、水溶性の、側鎖を有する、陰イオン性の第二重合体性保持助剤の溶液を該懸濁液に混入することによって、該懸濁液を再凝集させる段階と、再凝集した懸濁液を排水して、シートを形成する段階と、該シートを乾燥する段階とを含む請求項1記載の製紙方法。

12. 水溶性の、エチレン性不飽和の陰イオン性単量体投入分、及び側鎖形成剤の逆相乳化重合によって製造した水溶性の陰イオン性重合体であって、該重合体が、

(a) 約3dl/gを超える固有粘度を有し、
(b) 0.5を超える0.005Hzでの $\tan\delta$ レオロジー的振動値を有するか、側鎖形成剤の不在下で製造した、対応重合体の加塩S LV粘度数の少なくとも3倍である脱イオンS LV粘度数を有する
陰イオン性重合体。